

県内外からの応援メッセージ

できる人が、できるときに、無理なく、楽しく！

千葉県習志野市秋津コミュニティ 顧問 岸 裕司

とかく、できない人が、できないとき（時間帯）に、無理をするから、楽しくない、といったかかわり合いをしていませんか。そのことは、先生も保護者も地域の方々もきっと同じでしょう。であれば長続きしませんよね。そこで、学校と地域双方の事情に精通するコーディネーターが必要です。その人を介して学校と地域双方にメリットが生まれる Win&Win でつながれば、その先には「地域とともにある学校」になっていくと確信するからです。その点では、山口県が推進する「地域協育ネット」は最適と思います。ぜひ、できる人が、できるときに、無理なく、楽しく！ ね！



「地域協育ネット」を支える熱い思い

京都市教育委員会学校指導課 首席指導主事 西 孝一郎

「何度行っても山口県は〇〇〇」〇〇〇には、いろいろな言葉が入ります。「すごい」「前向きだ」「熱い」「進歩している」。山口県から帰るときには、いつもそんなことを思い浮かべながら、新幹線に乗っていました。「地域協育ネット」の仕組みはすばらしいです。でも、その仕組みを生きたものにしてしているのは、山口県の方々の願いや思いです。子どものために、人のために。こんな思いがある限り、「地域協育ネット」の歩みは止まらないでしょう。京都から、ずっと応援しています。



震災から感じた日常のコミュニティづくり

学校と地域の融合教育研究会 会長 宮崎 稔

今、宮城県女川町で東日本大震災の復興支援をしています。今回の震災では、日常のコミュニティのあり方が救助や避難所の運営面に如実に表れたという貴重な報告があります。地域での日常的な支え合いの場づくりには、教育を通じて行うことが有効です。「地域協育ネット」で全県的な広がりを見せている山口県の実践は、子どもの教育だけでなく命を守ることや生き甲斐づくり等々で、日本全体のモデルになると言っても過言ではないと思っています。ますますの発展を祈念しています。



「地域協育ネット」を通じた人づくりと地域づくりの循環を

文部科学省初等中等教育局 参事官補佐 廣田 貢

これからの子どもたちには、厳しい挑戦の時代を乗り越え、高い志や意欲をもって、他者と協働しながら、未来を切り拓いていく力が求められます。子どもたちの生きる力は、信頼できる多くの大人との関わりによって育まれていきます。人と人との関わりは、心を育てます。「地域協育ネット」は、まさに、地域ぐるみで子どもの生きる力を支える仕組みであり、大人同士が学び、つながり、活力ある地域づくりを促す仕組みです。「地域協育ネット」とコミュニティ・スクールの取組を通じ、人づくりと地域づくりの好循環が生み出されていくことを願っています。



学びを支える風土づくり

NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構 事務局長 仙波 英徳

地域福祉・地域医療など、住民の生活に密着した Category には地域がつく言葉があるのに、地域教育という言葉はあまり聞かれませんが、育児も含め子どもの教育に、地域を挙げて緊急に新たな仕組みづくりを構築する必要があると思います。山口県の「地域協育ネット」は、まさしく地域の学びのために社会全体で取り組もうとする素晴らしいシステムづくりだと思います。地域づくりに主体的に取り組む子どもを育むことは、同時に地域に主体的な大人を育み、学びをキーワードにした風土づくりへとつながっていきます。山口県の先進事例が今後とも充実していくことを願っております。



地域ぐるみで子どもの「生きる力」を育む

スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵

山口県のコミュニティ・スクールや「地域協育ネット」の取組は、全国から注目を集める素晴らしい内容です。充実した活動を支える重要なコーディネーターの役割は、今後ますます責任のあるものになっていくと思います。県内各地域で、それぞれの特色を生かして多くの方を巻き込んでください。創意工夫して子どもたちが考える機会を提供してください。そうした居場所は児童生徒の自尊感情を高めまします。まさしく生きる力になることにつながります。地元で愛着をもち、誇りに思う大切な心を育てましょう。支え手となる地域コーディネーター、家庭教育支援関係者の皆様の協力が、より一層の取組の活性化につながることを期待しております。



絆きずながつくる新たなネットワーク

山口県社会教育委員連絡協議会 会長 相原 次男

今、県内ではコミュニティ・スクールの充実とともに、「地域協育ネット」の名称の下に、小中連携を核としながら、幼保・高との連携、公民館や地域の団体等との連携を深めています。これらの連携システムを通して、多様な世代が交流し、地域の絆きずなが深まれば、元気なまちづくりにつながっていくものと確信しています。

また、県内の「地域協育ネット協議会」では、幼児期から中学校卒業までの15年間を見通した「めざす子ども像」やその実現に向けた具体的な方策も検討されています。この動きは、今後、家庭教育支援の体制づくりに大きく貢献するものと期待しています。



地域の活性化のためにも

山口県公民館連合会 会長 中原 和昭

子どもたちの元気な姿は、地域に活力を与えてくれます。地域がもつ特有の伝統や文化は、子どもたちに素晴らしい体験の場や感動を与えます。学校と地域と家庭が連携する必要性は、全国的にも早くから議論され、いろいろと試行が繰り返されてきました。それを全国的に具現化したのが「地域協育ネット」という仕組みです。今、山口方式として全国的に注目を集めている取組です。地域の拠点である公民館の教育機能を生かし、県内80%を超えるコミュニティ・スクールの取組とうまく協働することで相乗効果が生まれ、少子高齢化の進む地域の活性化にもつながることを確信しています。

